

はじめに

今回は、広島大学工学部での理系女子を増やす取り組みについて、報告させていただきます。

広島大学工学部は応用化学・生物工学・化学工学からなる「第三類」のほか、機械系の「第一類」、電気系の「第二類」、建設系の「第四類」と合わせた4つの類で構成されています。化学系は比較的女子学生の多い分野ですが、学部全体の比率としては例年2割弱であり、昔に比べて増えてきたとはいえ、依然として少ない状況が続いています。当学部では3年前から夏のオープンキャンパスに併せて女子高校生を対象とした企画「リケジョ〜理系女子（教員+学生）との座談会〜」を開催し、工学を選んだ我々女性の姿を間近に見て感じてもらう取り組みを行ってきました。今年は8月21日と22日に実施し、合計112名のご参加をいただきました。

リケジョのすすめ

会の冒頭、筆者から私見を交えながら、将来、技術者として資格をもって働くことの意義をお話しさせていただきました。分野の違いはあるにせよ、工学部の最大の魅力の1つは就職状況の明るさにあります。大学で工学的な素養をしっかり修得できれば、出産や育児などのライフイベントを経ても、技術者として息長く活躍できると考えています。当方の女



教員からの話題提供

子学生による話題提供でも、就職活動を通しての実感を挙げてもらいましたが、多くの企業が女子学生の採用にかなり積極的であることがわかりました。この点は高校生だけでなく保護者の皆さんの関心を最も集めたところと思います。

座談会の様子

座談会は、参加者に興味のある類のテーブルについてもらい、各所属学生（+教員）と1時間程度歓談してもらう形式で行いました。大学生活のたわいもない話題でも、同じ境遇を経てきた女子学生の率直な意見は高校生の心に大いに響いたものと思います。実際のところ、高校生の印象がどうだったかは定かではありませんが、「工学部」という男くさいイメージの所帯に属しながら、会ってみると学生も教員も（良い意味で）「意外と普通だな」と感じてくれたのではと思っています。インターネットがいかに普及しようとも、やはり百聞は一見にしかず。「ここなら自分も楽しく通えそうだな」と少しでも感じてくれたとしたら本望です。



座談会にて、質問タイム



座談会の様子

おわりに

現状、多くの高校では文系or理系のクラス分けをされ、ここで理系クラスに属さないことには工学部への進学につながらないわけですが、依然として女子は文系志向が高い傾向にあるといわれています。一教員として、興味や関心のある分野に飛び込んでいける勇気ある女子を応援するとともに、実社会で活躍する真のリケジョをもっともっと増やしていくために、今後も微力ながら貢献できればと考えています。

〔金田一清香（広島大学大学院工学研究科）〕

© 2018 The Chemical Society of Japan